

視力検査

子どもの目の機能は生まれてから発達を続け、6歳にはほぼ完成します。ところが強い屈折異常（遠視、近視、乱視などをいいますが、外見からはほとんどわかりません。）や斜視があると目の機能の発達が遅れ、よい視力が得られません。こうした異常はできるだけ早く見つけて、正しい治療や指導をする必要があります。

このような異常を見つけるのに、視力検査は最も適しています。

お子さんが元気いっぱいになっていくためにも、必ずご家庭で視力検査を行ってください。

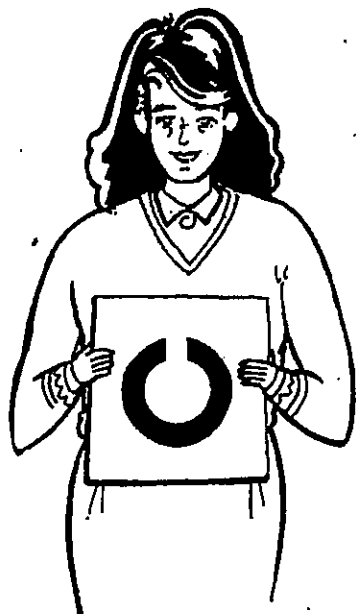
〈用意するもの〉

1. 視標：右ページの下の方をそれぞれ切り取り、20cm四方くらいの厚紙に貼ります。
2. 眼帯：ガーゼ又はティッシュペーパーを5cmくらいの大きさに折って、バンソウコウかセロテープで、のぞかれないようにしっかりとめてください。
3. 距離を測るための物差し、またはメジャー

〈検査の方法〉

1. 楽に本が読める程度の明るい部屋で行います。
2. 視力検査の練習をします。
 - ① 1mくらい離れて、向かい合い、大きい視標を見せます。見せる高さは、お子さんの目の位置に合わせてください。（両目で練習します。）
 - ② 切れ目の方向を指か手で示して答えさせます。または視標と同じような大きな輪を厚紙で作ってお子さんに持たせ、輪の切れ目の向きを合わせる方法でも結構です。
 - ③ 切れ目の方向は右、左、上、下の四方向で行います。切れ目の向きを変えるときは、必ず一度視標を隠してから変えてください。
 - ④ 両目を開けて、切れ目の方向を正しく答えられますか。検査方法を理解できたらいいよ検査です。
3. 視力検査をします。
 - ① 2.5m（正確に物差し等で測ってください。）離れて、はじめに大きい視標を使って行います。
 - ② 最初に両目で検査します。上下左右の四方向を見せて、三方向以上正解したら見えたとします。大きい視標が見えたら、つづいて小さい視標で同じように検査します。
 - ③ 次に左目を隠して、右目の検査をします。両目の時と同じように判定します。
 - ④ ついて右目を隠して、左目の検査をします。
 - ⑤ 検査の結果をそれぞれアンケート（お子さんの目に関するアンケート）に記入して、健診の時にご持参ください。

視標の見せ方



切れ目の考え方



3歳をすぎると、充分視力測定ができます。

<視 標>

キ リ ト リ 線

